

ねことおしるこ

小川未明

青空文庫

「お姉ちゃん、お姉ちゃん、たいへん。」と、まくらをならべている正ちゃんしょうが、夜中よなかにお姉さんねえを起こおしました。よく眠入ねいっていたお姉さんねえは、何事なにごとかと思おもって、おどろいて目をめをさまして、
「どうしたの、正ちゃんしょう。」と、いまにも立ち上たがろうとなさいました。

「あれ、たいへんじゃないか。」と、正ちゃんしょうは、大きな目めをあけて、耳みみをすましていました。

「なにさ、なにがたいへんなの。」

「アオン、アオンといっているだろう。あれは、黒くろいどらねこだよ。そして、ニヤア、ニヤアといっているのは、三毛みけなんだよ。」

しょう 正ちゃんは、ねこのけんかで目をさましたのでした。小さい三毛が、大きな黒ねこにいじめられているので、たいへんだと思つたのです。

「ねこのけんかでしょう。そんなことで、人を起こすものがありますか、びつくりするじやありませんか。」と、お姉さんは、正ちゃんをしっかりとしました。しょう 正ちゃんはお床の中で、しばらく黒ねこと三毛ねこのけんかをきいていましたが、我慢がしきれなくなつて、

「しっ！」と、どなりました。

そのうちに、ねこのなき声なきこゑがしなくなりました。

「わるいどらねこだな。こんど見つけたら、石を投げてやるから

「
 そういつて、正ちゃんしょうちゃんは、眠ねむりしましたが、お姉さんねえは、なかなか眠ねむれませんでした。明あくる日ひの朝あさ、みんなが、テーブルの前まえにすわったとき、

「あんなことで、起おこすものじゃなくてよ。」と、正ちゃんしょうちゃんは、お姉さんねえにしかられました。ところが、その日ひの午後ごごでありました。お姉さんねえが、学が校こうから帰かえつてくると、往おう来らいで遊あそんでいた。お姉さんねえが、遠とくから、見みつけてかけてきて、正ちゃんしょうちゃんが、遠とくから、見みつけてかけてきて、

「お姉さんねえ！」と、呼よびました。これを見みた、お姉さんねえは、思おもわずにつこりなさいました。正ちゃんしょうちゃんは、やつと、お姉さんねえに近ちかづくくと、

「お姉ちゃん、おしるこがあるよ。だけど、たった、一杯！」と、
大きな声で、いいました。歩いてる人が、これをきいて、笑つ
てゆきました。お姉ねえさんも、きまりが悪くなりました。お家
へ帰ると、お姉さんは、

「なぜ、あんなみつともないことをいうの、人が笑つてゆくじゃ
ありませんか。」といつて、正ちゃんをしかったです。

「ほんとうだから、いいだろう。僕、おしるこたべたいな。」と、
正ちゃんは、いいました。

「いいえ、もう、あんたはいけません。」と、お母さんがおつし
やいました。

正ちゃんは、外へ遊びにゆきました。それから、だいぶ時間が

たちました。そのうちに、日が陰かげつて、風かぜが寒さむくなりました。

「さつき、正しょうちゃんは、セーターをぬいだのよ。寒さむくなつたから、呼よんできて、着きせておやり、かぜをひくといけない。」

こう、お母かあさんが、おつしやつたので、お姉ねえさんは、正しょうちゃんをさがしにゆきました。しかし、どこにも、その姿すがたが、見みつかりませんでした。

「いませんのよ。」と、お姉ねえさんは、帰かえつてきました。

「赤あかつち土はらの原はらつぱにも。」

「ええ、原はらつぱにも、お宮みやの境けい内だいにも。」

正しょうちゃんは、よく、その原はらつぱや、お宮みやの境けい内だいで、お友ともだちといろいろのことをして遊あそぶのです。

「どこへいったでしょう。こんなにおそくまで遊あそんでいることはないのに。」と、お母かあさんはおつしやいました。

「私わたし、心配しんぱいだから、もう一度ど見てくるわ。」と、お姉ねえさんは、めなみだに涙をためて、お家うちを出でました。昨日きのうから、いろんなことで、正しょうちゃんをしかつたのを思おもい出だして、悪わるいことをしたと後悔こうかいしました。なぜなら、それは、正しょうちゃんが、無邪むじや気であつたからです。

「ねこのけんかも、おしるこのことも。」と、お姉ねえさんは、歩あるきながら、考かんがえました。そのとき、あちらから、子供こどもたちの声こえがして、わあわあいつて、きかかなかる中しゅうに、正しょうちゃんもいたのです。お姉ねえさんは、やつと安あん心しんして、そのそばにまいりました。

「正ちゃん、どこへいつていたの？」と、お姉さんは、ききま
した。

「本屋の二階で、学校ごっこをやっていたのさ、僕は、算
術が七点で、読み方が八点で、三番だ。えらいだろう。」と、
正ちゃんは、いいました。

「だめよ。もつと、いいお点をとらなけりや。」と、お姉さんは、
しかってから、はつとして、いつも弟に小言をいう悪いくせに気
がついて顔を赤くしました。

青空文庫情報

底本：「定本小川未明童話全集 10」講談社

1977（昭和52）年8月10日第1刷発行

1983（昭和58）年1月19日第6刷発行

入力：特定非営利活動法人はるかぜ

校正：仙酔ゑびす

2011年12月1日作成

2012年9月28日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www>

W.aozora.gr.jp/) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランテイアの皆さんです。

ねことおしるこ

小川未明

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>

※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。

<http://tokimi.sylphid.jp/>